

令和2年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立袋井特別支援学校 磐田見付分校 P T A
学 校 名	静岡県立袋井特別支援学校 磐田見付分校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	43人

1. 使用状況

寄贈物品名	電動糸のこ盤
使用学年及び人数	自主生産作業 クラフト班 木工グループ 8人
使用頻度	2回/週
使用状況	週2回(約6時間)、作業学習においてウッドランプ(ランプシェード)の波線の裁断に使用している。
物品の使用による変化や効果	<p>旧糸のこ盤と比べ以下の点が優れていると感じた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 三段階のスピードが選べ、成長によって速度を変えられる。 2 揺れが少ないため、線を注視し、はみ出さないように気をつけながら取り組める。 3 ドリルで下穴を空けて刃を通す際に、アーム全体が動くため刃や木を傷めにくい。 4 割れやすい材料のときには、スピードを低速にして気を付けることができた。 <p>昨年度より個数は減ったが、二人の1年生は「〇枚切らないと間に合わない。」と目標をもって、作業に取り組んでいた。</p>
今後の活用の見通しや課題	1月の販売会に向け、ウッドランプの製作と平行し、パズルの置物も製作する予定である。
その他希望や所感など	見付の丘フェスタでは、20個のウッドランプを用意しましたが、数分ですぐ売り切れた。振り返りのとき「個数を増やしたい。」と生徒から声がたくさん上がった。しかし、糸のこ盤が2台では、1回の授業で2個製作するのがやっとなので、もう1台あると嬉しい。

2. 活用の様子



生徒の感想
初めは「中」のスピードで切っていましたが、今では
「高」のスピードで切れるようになりました。
調子よく切れるので、集中できます。



ウッドランプ：ストレートタイプ(数量限定)
ラウンドタイプ

木製コースター

